

「ふくおか未来人財育成ビジョン」の概要

1 策定年月

平成 27 年 10 月 (平成 27 年 11 月に福岡県教育大綱として位置づけ)

2 「ふくおか未来人財」の必要性

超高齢社会、人口減少社会の到来、経済のグローバル化の進展などにより、社会の基本的な構造や生活様式が大きく変化している中、それぞれの人は、社会における自己の立場に応じた役割と責任を果たすことを通じて、自分らしい生き方を実現するとともに、多様な人々と共に経験したことの無い課題を解決しながら、将来に夢や希望の持てる活力ある社会を創造していくことが重要である。

このような認識のもと、今後、福岡県、そしてこの国がさらに発展していくためには、“Think globally, act locally” すなわち、「国際的な視野を持って、地域で活躍をする」若者の育成が急務であり、「国際的な視野を持って、地域で活躍をする」若者を「ふくおか未来人財」と定義し、その育成に努める。

3 「ふくおか未来人財」に求められる力

① 学力、体力、豊かな心

「国際的な視野を持って、地域で活躍をする」ための基礎として、基本的な知識技能に加え、これらを活用する力を含む「学力」、学ぶ意欲や気力の充実にも深くかかわる活動の源としての「体力」、豊かな情操や自尊感情、規範意識、心の回復力（レジリエンス）、生命の尊重、他者への思いやり、社会性、公共の精神などの「豊かな心」、これら3つをバランスよく身に付けることが必要である。

② 社会にはばたく力

地域社会や職場で活躍するためには、自ら考え、多様な価値観の人々と協働し、課題を解決していく「社会にはばたく力」を身に付けることが必要である。さらに、社会の仕組みや社会の中での自己の役割を理解し、その責任を果たしながら、自立していく力を身に付けることが必要である。

③ 郷土と日本、そして世界を知る力

これからの時代を生きる青少年は、グローバル化の波が押し寄せている中、「世界の中の日本」を十分に自覚し、活動していく必要がある。そのためには、郷土や日本の歴史、文化、地理を深く学び、それらを背景とする考え方、価値観等を十分に理解した上で、世界の歴史等を学び、海外との違いを理解し、多様性を認め合いながら、様々な課題に柔軟に対応する力を身に付けることが必要である。

4 施策の方向

①「学力、体力、豊かな心」の育成

学力の向上

- 基礎的、基本的な知識及び技能を確実に習得させる取組みの強化（特に学童期）
- 福岡県が取り組んできた「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす！」という学ぶ意欲等を高める指導法や、アクティブ・ラーニング（教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、子ども達の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法）を活用した主体的で参画型の授業の推進
- 学力向上に取り組む市町村、学校等への支援
- 教員の指導力の向上や教員が子どもたちの指導に専念できる学校の体制づくり

体力の向上

- オリンピック・パラリンピックに向けた機運の高まりを生かしながら、運動やスポーツに対する理解や関心を高める取組みや、運動部活動への加入を促す取組みの推進
- 大学等と連携し、先進的なスポーツ医科学の知見を取り入れた取組みの推進
- 引退したトップアスリート等地域人材を活用した取組みの推進
- 地域におけるスポーツに親しむ拠点づくりの推進
- 体力向上を下支えする環境づくりや健康教育の充実

豊かな心の醸成

- 道徳教育や人権教育などの推進
- インクルーシブ教育システム（障害のある児童生徒が、その年齢及び能力に応じ、可能な限り障害のない児童生徒と共に、その特性を踏まえた十分な教育を受けることができる仕組み）構築の推進
- 命を大切にする心を育む体験活動（動物の飼育、高齢者との交流等）や、多様な芸術文化に触れる機会の充実
- いじめ、不登校、中途退学、非行等の予防、解消に向けた総合的な対策の強化

学校、家庭、地域の連携協働

- 学校、家庭、地域がそれぞれの責任を果たすとともに、連携を強化し、多様な地域資源を活用しながら、学校の教育活動に対する支援や学校運営への参画を促進するシステムづくりの推進
- 家庭教育を支援する取組みの推進

教育環境づくり

- 小中一貫教育など教育の多様化への対応
- 高等学校の学科、コースの充実
- 私立学校の特色を生かした教育活動への支援
- 特別な教育的支援が必要な児童生徒へのきめ細かな対応
- ICTを活用した能動的な学習や遠隔授業の導入

②「社会にはばたく力」の育成

コミュニケーション能力を高める

- 各家庭や乳幼児教育の場においては、大人が子どもの言葉を先取りせず、子どもが自分の考えや気持ち、要求を自分の言葉で言える場を保障するとともに、子どもの呼びかけや質問に対して、積極的に応答すること
- 学校等においては、教員の指導技術向上やコミュニケーションを重視した双方向、発信型の授業などを積極的に導入

遊び体験、自発的、能動的な体験活動の充実

- 体力の向上、コミュニケーション能力の育成、創造性や協調性等を培う「遊び」の重要性を再認識し、学校における休み時間等を活用した外遊びの活性化や、各地域での「遊びの拠点づくり」の推進
- 子どもの体験活動を推進するに当たっては、必要以上に大人が事前に準備したり、活動内容を細かく指示することを避け、子どもにとって受け身の「させられ体験」にならないようにする

多様で特色ある能力や個性を伸ばす

- ICTやアクティブ・ラーニング等を活用した能動的な教育の推進
- 科学技術、スポーツ、芸術等における次代を担う人材を育成する取組みの推進
- 起業家的な精神と資質、能力を育む教育の推進

キャリア教育の充実

- インターンシップ、ジョブシャドウイング（子どもが事業所を訪問し仕事内容や職場の様子を観察するキャリア教育の手法）等の職場体験の充実
- 産学官が連携した高度な技術、技能を持った若者を育成するための取組みの推進

課題解決型実践的育成プログラムの導入

- 地域や海外の人々と関わりながら、地域コミュニティ活性化等の課題解決に当たることによって、実践的に社会にはばたく力を身に付けるプログラムの開発・導入、参加促進

③「郷土と日本、そして世界を知る力」の育成

郷土の魅力を学ぶ	<ul style="list-style-type: none">■地域行事や郷土の歴史などを学習、体験し、さらに、学んだことを他者に紹介する機会づくりの推進■地域の農林水産業、工業、商業など多様な産業の魅力について、職場体験などを通じて、興味や関心を持たせる仕組みづくりの推進
世界の多様性を理解する	<ul style="list-style-type: none">■年齢に応じて、ホームステイの受入れや地元大学留学生との交流、海外の高校、大学への留学、国際大会への参加など、世界の青少年と切磋琢磨していく取組みの推進
外国語能力を身に付ける	<ul style="list-style-type: none">■小中高等学校における一貫した英語教育の推進■学校内外での、英語を使ったコミュニケーションを行う環境づくりの推進■英語力を高めるための教員研修の充実、改善■近隣のアジア諸国の言語など英語以外の外国語能力を身に付ける機会の拡大

④家庭、学校、地域、企業及び行政の連携協働

家庭に期待すること	<ul style="list-style-type: none">■家庭の育児力や教育力の向上■（特に乳幼児期においては）保護者による深い愛情と確かなしつけ
学校に期待すること	<ul style="list-style-type: none">■学校の教育力の一層の向上■学校の教育理念、教育方針、教育活動等についての情報発信の強化■家庭や地域と連携協働した取組みの強化■地域に開かれた、地域とともにある学校づくりの推進
地域に期待すること	<ul style="list-style-type: none">■「ふくおか未来人財」を地域社会全体で育成していくという大きな夢と使命感の共有■青少年育成団体やNPOとの連携協働の推進
企業に期待すること	<ul style="list-style-type: none">■企業が持つ人材や技術等を生かした取組みの推進■男女を問わず、仕事と子育ての両立や地域活動等へ参加できる職場環境づくり

行政が取り組むべき こと

- 「ふくおか未来人財」を育成するための取組みについて、その必要性や意義を広く県民に広報、啓発
- 家庭、学校、地域、企業及び行政が連携協働しながら実効ある取組みを推進するための条件整備等の支援